



長崎県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jim@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「私たち中小企業家が長崎を牽引していく！」 ～地域と共に生きる長崎同友会 会勢600名を達成しよう!～

第4回 人を生かす経営全国交流会 in 長野

今こそ「変革と継承」の時

～共に育ちあい、企業と地域の未来をつくろう～

開催日：11月20日(木)・21日(金) 会場：メルパルクNAGANO

問題提起

同友会の企業づくり運動はこれでいいのか！？

問われる「労使見解」の実践

中同協副会長 人を生かす経営推進協議会代表
(株)宮崎本店 代表取締役 **宮崎 由至 氏**

長崎支部 出島地区会 土井 幸喜

問題提起にふさわしい辛口の話で、身につまされる思いで聴講しました。事業継承と簡単に言いますが、そこにはやはり戦略的に時間をかけ計画的に行なわなければならないものだと改めて学びました。同友会で何を学ぶのか。やはり学んだものを実践していくことだと思いました。

◆全体を通して

全国から約450名の会員さんが集っての勉強会。大変刺激になり良い学びの場に参加させていただきました。次年度は、共育委員会としても新入社員合同入社式、新入社員研修など新たな取り組みを計画しています。同友会の理念でもある「共に育つ」という実践を、全国の同友と触れ合うことで、具体的な学びを気づかせていただきました。ありがとうございました。



目次

第4回 人を生かす経営全国交流会 in 長野 参加報告	1	広告のアクセス 第26期 経営計画発表会 参加報告	14
11月例会報告	4	会員活躍	14
増強ウィーク 開催報告	11	事務局企業訪問	15
中同協 第1回 企業連携推進連絡会 参加報告	11	入会・復会会員紹介	16
第26回 中小企業憲章・条例推進本部会議 政策委員会会議 参加報告	12	11月例会案内	17
中同協・憲章本部・政策委員会合同会議および政策担当事務局研修交流会 参加報告	12	理事会議事録 抜粋	18
九州・沖縄ブロック代表者会議および第2回 中同協幹事会 参加報告	13	会員消息・会員数	18

記念講演

笑顔はひとをしあわせにする

良質なコミュニケーションが絆と信頼を育む

清泉女学院短期大学幼児教育科 専任講師
CLOWN LABO PROJECT 主宰

塚原 成幸 氏

長崎支部 出島地区会 土井 幸喜

人はどんな時に笑うのでしょうか。上位3位の紹介がありました。第三位は家族といる時。意外と一位だったと思った方もいたのではないのでしょうか。第二位はパートナー（配偶者、恋人）。第一位は、友人・知人という結果です。この結果からも想像できるように、笑いが起きる場合は、周りの人との関係性によって起きる。ということです。いくら夫婦でも関係性が希薄になると、笑いはおきません。

職場での笑いというのを考えてみるとどうでしょう。同僚との関係性、上司と部下の関係性、人間関係



が希薄になればなるほど職場での笑いは発生しません。笑顔あふれる職場で働きたいでしょうか？それとも笑顔一つないしかめっ面が多い職場で働きたいでしょうか？聞くまでもなく前者だと思います。

笑顔は生産性を向上させます。脳が一番活性化するのは、気分が快の時です。職場における笑顔の効用を、科学的に学ぶことができました。

第2分科会

すべての変革は社員との共有

人育てはコミュニケーションの質と量

(有)中井レストラン企画 代表取締役
大阪同友会 経営本部人材部門長
中央ブロック 副ブロック長、中央北支部副支部長

中井 深 氏

長崎支部 出島地区会 土井 幸喜

当初、社員の採用は独立希望者のみで、雰囲気は部活の延長みたいで、何か違和感を感じるようになったそうです。同友会の学びで経営指針書は作ったものの、

経営指針があるから辞めたい。と社員が言ってきたときは、かなり落ち込んだそうです。「社員のための経営指針ではなく、社長のための指針書だった」と気づかされます。そこから採用を新卒者に切り替え、定年退職までの雇用を、キャリアプランと共に示し、社員と向き合っていく姿勢に学びを得ました。

今では、社員の口から「大変なことはわかっています。社長、やりましょう！」という言葉が返ってくるようになったそうです。素晴らしい報告でした。



第4分科会

目の前に立つ一人の若者から始まる 企業づくり・地域づくり・同友会づくり

共同求人運動が切り拓く未来

コーディネーター

宮城同友会 副代表理事
(株)ヴィ・クルー 代表取締役

佐藤 全 氏

パネリスト

宮城同友会 代表理事
日東インダ(株) 代表取締役社長

鍋島 孝敏 氏

秋田同友会 理事、共同求人副委員長
(有)佐藤徳太郎商店 代表取締役社長

佐藤 進幸 氏

福島県中小企業家同友会 事務局長 豆腐谷 栄二 氏

同友会事務局 峰 圭太

2年に一度、「経営労働・社員教育・共同求人・障害者問題」の4委員会合同企画で開催される交流会に

参加させていただきました。長崎同友会からは金井副代表、土井共育委員長との出席でしたので会冒頭の問題提起、記念講演の報告は割愛させていただき、参加させていただいた第4分科会(共同求人)を中心に、今4委員会からの問題提起を軸に報告させていただきます。

現在長崎同友会は、同友会の三位一体である「経営指針、社員共育、共同求人」のうち、経営指針策定運動は会員の中に徐々に浸透しつつあると思いますが、社員共育と共同求人は会としての取り組みができておりません。経営指針と共育、共同求人のサイクルがなぜ企業経営に必要なのか、どのように共鳴し合うのか今回の分科会で学ぶことができました。

「共同求人は単なる人採りではない」、この考え方が共同求人へのベースです。経営指針を作り、“共同”で企業説明会を行うことで自社のブースに来場いただく学生に、より自社の魅力を語る、ビジョンを伝える。魅力がないブースには学生は来ない。来ていただくた

めに自社の経営を、経営指針に基づき実践できているか再度見直すことができる。また地元の学生を雇用することで地域貢献となり、ひいては地域にとっても将来の顧客を獲得することができる。まさしく同友会における最大の社会性が共同求人からなる新卒の雇用という報告でした。新しい社員を採用しなければ楽だ、という考えもあるそうですが、新卒の採用をしないと会社の風土も変わらず利益も上がらない。逆に新卒を採用することで既存の社員給与を上げていくという経営者の覚悟とそのため新しい利益を生み出す知恵が生まれる。今後の地域づくりを担う若者が景色を描くことができるような会社になることが大切であり、そうすることで地域からもあてにされるということです。学校、行政に何度も足を運び同友会という組織で取り組むことで関係性が生まれます。共同求人は単にブースを出す「行事」ではなく、上記の取り組みを組織的に行う「運動」であることを学ぶことができました。

少子高齢化で人口は中央に集中し、地方には消滅予想都市も発表されている中、今後の企業経営存続のためには計画的な人事の考えが必要になってきます。分科会最後、座長のまとめに「今起きていることは3年前の結果に過ぎない」という言葉がありました。今から3年後をまたはその先を見据え今から取り組むべきことがきっとあると確信した分科会でした。単独（個）で動く（自社のみでのリクルート活動）もちろん可能であり、しっかりと人材確保ができていない企業も少なくないと思います。しかし経営を学ぶ場である同友会の共同求人は採用という行事だけに留まらず、経営指針の作成と実践、社員共育まで通しての運動であり、PDCAのサイクルがしっかりと体系化されていることを学び、実践につなげていきたいと強く思い

ました。

交流会の最後には4委員会から問題提起がありました。4委員会共通でも労使見解をベースに経営指針の具体的実践、経営環境の強化や地域にあてにされるような戦略的活動など力強い問題提起でした。中でも経営労働委員会の中山委員長（福岡同友会代表理事）からは事務局の経営環境改善という問題提起がありました。同友会は三位一体のみならず政策提言や金融、税制、昨今はエネルギーシフトなど様々な分野に課題を見出し解決、改善に向けて日々議論しています。これらは必ず自社の経営と地域の発展のために結び付く運動であり、この運動のパートナーとして位置づけられている事務局の一員として会員と同じように課題意識を持ち情報をつなげ、学ぶための環境は私たち事務局員も絶えず自己変革を行わなければならないと思います。同友会運動のセンター的機能を果たす役割としての誇りを持ち、会員企業と地域の発展のために何ができるか、また何を発信していき、実践していくか大きな気づきと期待、覚悟を持つことができた交流会でした。また2年後、今回いただいた学びがどのように実践されたか、確認したいと思います。



第6分科会

経営ビジョンに基づく新卒採用・「共育」で、「誇りと豊かさ」を育む

広島同友会の活動の実践、わが社の企業づくりの実践

広島同友会 県理事、求人社員教育委員長
(株)EVENTOS 代表取締役

川中 英章 氏

大村支部 金井 政春

消費税増税、急激な円安、アベノミクス効果の成果？、マイナスの経済成長、少子高齢化に伴う労働者不足、突然の衆議院解散等々目まぐるしい変化の中で、自社の経営に不安を抱きながらの参加でした。特に、建設業界においては深刻な人材不足になっています。求人広告を出しても、ハローワークに掲載しても殆ど応募はありません。当社においては高齢化も進み3年から5年後を考えると非常に不安です。

朝7時50分発の飛行機に乗り、東京駅より新幹

線にて長野へ向かい12時30頃会場へ到着しました。最初に全体会・問題提起が行われました。中同協副会長 人を生かす経営推進協議会代表 宮崎由至氏より 同友会は「運営」でなく「経営」を学ぶ場であり、会社や社員の将来に責任を負う経営者として、学んだことを経営実践すること、経営的観点で地域の将来像を描きながら「地域を代表するような企業になりましょう」との問題提起がありました。

私が気になったのは法人税減税、円安等により大企業の景気が良くなると給与所得の格差で中小企業には人材は集まらない。景気が良くなると中小零細企業の人材不足は加速するのではないか？との報告で益々不安になりました。

不安の中14時から分科会が始まりました。私は第6分科会に参加しました。川中さんは大学卒業後大学の職員として大学に残りましたが、27歳の時大学の考え方等で退職されます。

その後飲食店でアルバイトを始め、大衆向けのイタリアンレストラン、フレンチレストランを目指しアルバイト先のコックさん達を引き抜いて、大学の退職金17万円を資本に創業されたそうです。持ち前の行動力と時流に乗り、売上は飛躍的に伸びたそうですが、社員教育をはじめ経営の環境整備が出来ないままの躍進のため、結果多額の借金を抱えられ、倒産の危機に追い込まれました。40名近くの社員は殆ど退職されましたが、6名の方が残ってくれたそうです。6名の為に経営者の責任として支援先を探し、子会社として再建されました。その後も幾多の試練を乗り越えられ経営を続けられました。

その様な中10年程前に、広島同友会に入ると共同

求人に参加できると聞き、同友会に入会されたそうです。4年位は仕事柄、例会等には参加せず幽霊会員だったそうです。ある時、設営の手伝いに参加した新入社員教育セミナーに感動して、その後、本格的に同友会活動に積極参加され、社員が自分のビジョンを持って、明るく、笑顔で生き活きと働く会社を作ることが自分の使命と考え、現在は社員の幸せを一番に経営されています。

「人間は楽しいことが有るから笑うのではなく、笑うから楽しくなる」「会社を明るくする一番早い方法は社長が笑顔でいる事」長野から帰ってきて作り笑いを心がけています。その笑いがやがて本当の笑いになるよう頑張ります。

長崎支部 浦上地区会 例会報告

日 時	11月25日(火) 午後6時30分
会 場	ギャラリーヘキサ
テ ー マ	景気、国際情勢、時代の波に「事業縮小」という決断！
報 告 者	学校法人 平成国際学園 長崎情報ビジネス専門学校 教務部部长 中尾 陽一郎 会員



現在、長崎情報ビジネス専門学校の教務部部长を務められている中尾さんですが、今に至るまで様々な経験をしてきたことを赤裸裸に語っていただきました。また、事業としても、税理士事務所からスタートし、学校設立、そして関係協力会社を設立するまでになり順

風満帆な経営状況かと思いきや、行政の変化に左右されやすい業種であり、事業縮小も余儀なくされているということでした。

しかし、そんな中でも学んだことがたくさんあり、特に面接に関しては、会社のイメージを刷り込む重要なところで、相手に対して会社の印象が決まる大切なところということ強調されていました。また、今後は事業縮小するところもあるけれども、事業拡大を狙っているところもあるということで、留学生部門に力を入れていきたいという事でした。

留学生の来日目的といえば、日本語の学習や日本の文化に触れたいといった事があるが、本当は少しでも日本に滞在して働きたいという事や、技術を習得して母国の日系企業で働きたいという事が本音であり、今後は質の高い留学生を多国籍で募集し、留学生の雇い

入れまで繋げることができるようになりたいという事でした。現に留学生がアルバイトできる場として銅座に居酒屋を出しており、「地域に根付いて仕事をしていく学生を育てていきたい」という事を語られていました。

報告後のグループディスカッションでも中尾さんの人柄や事業内容を垣間見ることができてよかったということや、それぞれの会社におきかえて考えると、雇用、人材育成といった事に力を入れていきたいといった意見が聞かれ、大変有意義な例会となり盛会の内に終了しました。

(文責 吉川 憂也)



長崎支部 出島地区会 例会報告

日 時	11月27日(水) 午後6時30分
会 場	メルカつきまち・5階ホール
テ ー マ	サステイナブル企業を目指して
報 告 者	(有) 壽物産 代表取締役 (有) 雲仙有機 専務取締役 永吉 誠 会員 (島原支部)



「サステイナブル」とは、地球環境、資源、地域を意識した持続可能な産業や開発の事。永吉さんの会社では、製材所で木材の切り端や、おがくずを家畜の敷料に加工・販売し、またその家畜の糞を使って有機肥料を製造し、農家に販売するという、林業・畜産業・農業と連携した資源の再生、循環を行っています。

また、石油の代替エネルギーとして、木質ペレットに注目し、その製造・販売を行っており、今後は障がい者施設とも連携し環境・地域に貢献できる企業を目指されています。

中学を卒業してすぐに上京し、様々な仕事を経験し、一時は経営者として成功を納めるも結局失敗。再起を計りお金を貯め、さあそろそろという頃に、実家から連絡が入り戻ってみると家業が火の車状態。そこから永吉さんの経営再建への道がスタートします。



まだ会歴2年7ヶ月という永吉さんですが、他支部の例会や全国大会にも積極的に参加され大変勉強熱心。そして人の良いところに気付く視点・嗅覚が人並み外れていると感じました。

質疑応答でパワーポイントでの報告のクォリティーの高さに質問が及ぶと、それも同友会会員のおかげ。テーマであるサステイナブルという言葉も同友会会員から教えてもらったとのこと。同友会には色々なプロがいて、聞けば教えてくれる。どんどん他支部・他県に参加して色んな方と知り合いになれば、どんどん自分が成長する。ぜひ積極的に参加して下さいとのアドバイスもありました。

懇親会では、オブザーバーの富山同友会の会員からも、是非富山に来てもらえるようまずは役員会に諮るとの話もあり、また福岡のフォーラムに参加した会員からも、長崎のレベルは全然負けてないとの話もありました。

永吉さんのバイタリティー・積極性・素直さに刺激を受け、参加した方々から前向きな言葉・意見が出され、充実した例会になりました。

(文責 中村 真一郎)



大村支部 例会報告

日 時	11月19日(水) 午後7時
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	人生の大海原。失敗も成功もまた楽し！笑顔で感謝の気持ちで福を呼ぶ ～目の前に現れた救世主、同友会はパワーの源と羅針盤だ～
報 告 者	スギセイフーズ(有) 代表取締役 杉本 誠二郎 会員 (諫早支部)

諫早支部より村山和幸会員を座長としてお招きしての今例会は、現在、大村、諫早支部ともに取り入れていない座長制の、今後の例会進行の指標となればということで執り行われました。

さて、報告者の杉本さんですが、いつもにこにこと



人懐こく、「すぎもっちゃん」の愛称で会員のみなさんから慕われています。また、県の仲間づくり委員長として会員拡大に大活躍中です。

そんな杉本さんが、9年前に中国へ事業進出しようとしたときの大失敗談が今回の報告内容です。長崎弁まる出しの親しみやすい口調でお話いただきました。

自らを、獅子座イノシシ年B型の突進型だと分析される杉本さんは、日本のかまぼこを現地で作って売るという計画で中国へ渡ります。しかし、中国の富裕層への接待や、周囲からの大きな期待等、派手な展開のなか、徐々に当初の感覚が麻痺していったそうです。目が▼マークになり、鼻は天狗のように伸び放題、資金ショートしているのに引っ込みがつかない状況に陥り、ついに破綻してしまいます。

打ちひしがれ帰国した杉本さんは、恨み言を言いながらも、何とか再起を図ります。そんな杉本さんを変えたのが、取引業者の社長の一言「ありがとうを毎日1000回言いなさい」でした。藁をも掴む思いだった杉本さんは、それを愚直なまでに実行したところ、目に映るすべての事象に感謝の感情を覚えるようになったそうです。

この話を聞いて映画「てんびんの詩」の映画を思い出した、物売るのではなく想いを売るという商売の

原点は案外どの業種でも同じではなからうか、という村山座長のまとめには、私もはたとひざを打ちました。

杉本さんは同友会入会后、中国での失敗は運が悪かったのではなく、必然だったと学んだそうです。中国に行く前に、なんでも相談できる同友会の環境があったなら、杉本さんの過去は変わっていたのかもしれない。

(文責 西 隆治)



諫早支部 例会報告

日 時	11月25日(火) 午後7時
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	経営計画書の実践報告
報 告 者	(有)プライアント保険 代表取締役専務 橋口 久 会員(佐世保支部)



橋口さんは、幼少のころより佐世保の米軍基地の近所で生活をされていたことで異文化との交流があり、就職は東京で6年間外国人対象の日本語学校の事務長をされ外国を飛び回り活動をされていました。

2006年お母様が経営されている保険会社の組織編成を機に帰郷。一人保険業数名の吸収合併会社設立に奮闘されましたが、うつ病という病に冒され、抗うつ剤による闘病生活となりましたが、奥様の看護の基、1年半後奇跡の復活をされました。



そのきっかけとなったのが、同友会の先輩村山隆之さんとの出会いでした。自身の勉強不足を実感し、経営計画書を作成されることをきっかけに企業の成長が始まったのです。『安心をシンプルに。安心を活力に。』の経営理念を掲げ、経営計画書と経営計画書発表会による実践を積み重ねられています。

経営計画書は、毎年レベルアップ改訂がなされ、経営計画発表会では会社の目標と社員の目標はみんなの目標とされており、社員の融和が感じられました。経営理念ボード・夢のノート・モジモジからキビキビ面談へ・身だしなみ・トイレの蓋のことなど自身が有言実行することで社員との絆も強く、会社の柱も太く成長されています。

●社員の成長なしに企業の成長はない。社員の成長の分母は常に経営者の成長である。そして、●自分の子供を入社させたい会社にしよう。私が特に感じた言葉でした。『0.1の魔法の法則』によって元気とやる

気を感じた例会でした。

(文責 張本 洋二)



島原支部 例会報告

日 時	11月20日(木) 午後7時
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	島原支部 若手経営者報告 第5弾 社労士 梅澤の労務管理講座
報 告 者	梅澤社会保険労務士事務所 所長 梅澤 浩 会員



最近新聞紙上やマスコミにおいて、よくブラック企業という言葉が使われるようになってきました。過重労働、長時間労働、パワハラ、残業代未払い等々、これらにより裁判沙汰となり、従業員不足から大規模な閉店にまで追い込まれる状況になっています。

わが島原支部ではこれを対岸の火事と思わず、経営者の教訓として良好な労使関係を作るためにはどうしたらいいのかということで、この道のプロである社会保険労務士の梅澤浩さんに報告いただきました。

今回は通常の例会と違い、グループ討議なしの講義形式で行い、報告後質問を受けていただきました。

今回の内容は大きく分けて、1 労働時間について 2 賃金について 3 就業規則についての3項目でした。

まず労働時間については、どうして労働時間を管理する必要があるのかということで、労働時間と賃金の関係から話が始まりました。時間外手当の計算や従業員の健康管理または最近よく言われる、ワークライフバランスなどへの配慮の説明をいただきました。そして労働時間制には変形労働時間制、みなし労働時間制というものもあり、実例を挙げて経営者と従業員の認識の違いから問題が起きたとの話しをしていただきました。また時間外労働(残業)の原則としてそれは会社が必要によりやらせるものであり、従業員が自分の都合で無断で行った場合は、自身でその立証責任を負わなければならないということでした。

賃金のところでは深夜時間帯での労働については割増となり、年少者についてはその仕事の内容についても制限が加えられるということです。その他には長期の休職、私疾病などは事例を挙げて説明がありました。ここで重要なことはコスト対策、時間外労働、賃金の構成だそうです。

最後に就業規則とその役割についてですが、これはトラブルを未然に防止するという意味でも必ず必要ということでした。法律的には社員10人以上の会社ではつくる義務があり、未満であっても前記したようなことからあった方がよいそうです。

最後の質問のところではやはり時間外労働、あるいはみなし労働時間についての質問が多く出されていました。

反省点としてはもう少し項目を絞って、事例についても、どうして問題が起きたのか、それをどうしたら防げたのか、もっと掘り下げて話をいただけたら良かったかなと思いました。

(文責 三田 茂樹)



佐世保支部 例会報告

日 時	11月21日(金) 午後6時30分
会 場	佐世保市民会館 会議室
テ ー マ	病気になりました、 それでも仕事をしたかった！
報 告 者	川添鮮魚店 代表 川添 隆 会員



川添さんは、7月に入会されたばかりの新入会員さんです。戦後、川添さんのおばあ様が始められた鮮魚店で、その後お父様へと引き継がれ、現在、川添さんが3代目として経営されています。

川添さん自身も高校生時代から手伝い市場に出入りしていたそうです。それから数年後、川添さんが24歳のとき、お父様が亡くなられ、事実上家業を継いで、代表となったそうです。

それから数十年頑張ってきましたが、だんだんとスーパーができ、顧客の減少と体調不良により、47歳のとき一旦店をたたんだそうです。

その時期、娘さんが東京で看護師をしていたこともあり、娘さんの勤める病院で検査をされました。そこでガンの告知を受け、2年間は、長崎で通院治療を行いながら、スーパーの鮮魚部やコンビニ等でアルバイト



トをしながら生計を立てていたそうです。それでもアルバイトでは仕事に対する充実感や満足感などは得ることはできず、49歳のときに、大変さも苦労もわかっている鮮魚店で再出発されました。今も継続して治療はされているそうです。

現在は、鮮魚も卸していますが、主に地魚をさばき、骨抜きをした後に真空パックにし、冷凍したものを販売されています。真空パックの魚は、長期保存が可能になり、下処理もしてあるのでたいへん調理しやすく、とても美味しく食べる事ができます。例会当日もオウガンの素揚げと小麦粉をつけて揚げたものを試食させていただきました。一旦冷凍したとは思えないほどおいしかったです。

最後に川添さんは、今は後継ぎがないので、自分が持っている技術、魚のさばき方や料理方法等多くの人に知ってほしい、もっとたくさんの人に魚を好きになってほしいとおっしゃっていました。その為にはどうすればいいのか思案中だそうです。グループディスカッションでも「あなたが魚屋だったら事業展開をどのように考えますか？」とテーマで、多くの意見をいただいていた感謝されていました。

私たちも今後どうなるかわかりません。その時、川添さんのように熱い想いで、現在の仕事を続けられるのでしょうか？また、同じ仕事をできるのでしょうか？私は、どんな事があっても今の仕事に情熱を注ぐ事が出来る自分になろうと、川添さんの話を聞いて強く心に思いました。

川添さん、本当にありがとうございました。これからもお互いに頑張りましょう。

(文責 永末 勝宏)

投稿募集のご案内

DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。

●文字数/約500字

●画像/歓迎します

掲載/情報広報委員会にて選考

投稿先/情報広報委員会または同友会事務局まで

メール/jimu@nagasaki.doyu.jp



新商品

長崎さるくマツト

ダスキン栄進

TEL.823-7633

瀧川 隆 会員 (長崎支部 出島地区会)

北松浦支部 例会報告

日 時	11月27日(金) 午後7時
会 場	池野酒店 吉井事務所
テ ー マ	中小企業に役立つ司法業
報 告 者	松田信哉 司法書士法人平戸事務所 所長 松浦 寛 会員



今月は、松浦寛さんより、司法書士法人を起業したきっかけや司法業を通して中小企業に役立つ話をいただきました。

自己紹介では、司法書士合格同期で高校の先輩にあたる松田さんとの出会いや、開設一年の振り返り、また、事業所各形態や都市部や過疎地で開業する際、各地域のメリット、デメリットなどパワーポイントとプロジェクターを使って説明していただきました。

なかでも経営理念「すべては“あなた”のために」という説明や土業もサービス業、依頼者の立場に立つ



て最高の仕事を行わなければならないことやスピード感を心がけていることなど、これまでの土業イメージが変わる行動指針を拝聴させていただきました。

また、各種研修会などに積極的に参加され、新しい情報を取り入れながら自己研鑽に前向きに取り組み、自社で取り組む定期刊行「サムライ通信」をお取引先などへ手配りされて土業の理解と会社PRを行われております。

グループディスカッションでは、未回収の50万円の売掛金をどのように回収しますかをテーマに、各グループこれまでの経験をもとに活発なグループ討議がなされました。その後の質疑応答でも本音で回答いただき、今回も有意義な例会でした。

(文責 大村 謙吾)



五島支部 例会報告

日 時	11月18日(火) 午後6時30分
会 場	福江総合福祉保険センター
テ ー マ	40年間の戦力として
報 告 者	(有)エス・ケイ・フーズ 取締役 中村 こずえ 会員(長崎支部 出島地区会)



中村さんは長崎市内のマクドナルドフランチャイズ12店舗を展開。障がい者雇用を積極的に進め、障がいがあっても会社で働ける様に職場の環境改善を進めて来られているそうです。

現在は、特別支援学校、公共職業安定所と



も連携し、他社でも障がい者雇用が広がる様にと活動されています。報告では障がい者との出会いから雇用までのお話をしていただきました。

13年前に他社で働いていた知的障がい者との出会いがきっかけで障がい者雇用を始める様になったそうです。当初は「掃除・洗い物・ゴミ出し」しかできない障がい者を見て、仕方ない、障がい者だからそれしかできないのだろうと、どこかで差別していたそうです。

しかし7年後、その障がい者の子が肉を焼いたり、ポテトを揚げていた姿を見て、自分が持っていた差別というもの打ちひしがれた。

健常者よりも仕事ができるようになるまでに何倍、いや何十倍も時間はかかるが障がい者にもできる仕事は沢山ある。障がい者を雇用する上で、疲れると表情や態度に出たり、漢字が読めなかったり、計算ができなかったりと苦手なところもあるが、健常者よりも欠勤や遅刻がなく、何事に対してもまじめに取り組み、目標に向かって努力するなど長所も多くある。障がい者と一緒に仕事をする中で、考えることによって人を育て、社員も学ぶ。これが社員教育だと中村さんはおっしゃっていました。

中村さんの障がい者雇用に対しての熱い思い、障がい者への愛情が強く感じられ、心を打たれました。この報告を聞き、障がい者雇用に取り組んでみたいという意見も出るほど素晴らしいお話を聞く事ができ

ました。

懇親会では、中村さんを囲みオブザーバーで来られた女性達と話は盛り上がりました。これからも女性の方の報告を増やして女性会員拡大にも力を入れていきたいと思います。

(文責 勝本 政裕)



青年経営者会 例会報告

日 時	11月14日(金) 午後7時
会 場	同友会事務局
テ ー マ	私の履歴書
報 告 者	(株)丸野 経営企画係長 野上 大樹 会員



野上さんは、現在お父様が経営している(株)丸野のアート引越センター 長崎営業所 所長もされています。野上さんは、子どもの頃からトラックを見て育ったそうで、その頃からトラックに携わる仕事をしたいと考えていたそうです。

そんなトラックを見て育った幼少期から小

学生・中学生・高校生と進学され、沢山の経験を糧に大学に進学され、大学では進学した地方があまりの寒さだったという事で1年半という期間で中退されたそうです。

その後、長崎に戻ってきて(株)丸野に就職されたそうですが、(株)丸野へ就職するも、2週間で福岡にある(株)GENEQ(輸入・輸出の船舶代理店)へ、今後、国内だけの物流だけでは、やって行けない!との考えより出向。その後(株)丸野に戻ってきて、また1週間で、アートコーポレーション(株)名古屋支店へ出

向。引越作業・営業・業務・法人を経験するために直営店にて修行の為の出向です。

という他社での経験を活かし現在の職場に戻り、就任時は一步下がり改善点を検討し、就任初年度に粗利率6%の改善を成功させるという敏腕も発揮しているそうです。

グループディスカッションテーマは「会社の経営の理念や方針、社長の考えを、社員にどのように伝えていきますか?浸透させていますか?」で、改めて自分の会社の経営方針や沿革について考えることが出来ました。各会員さんからは、経営方針や沿革を同友会に入らないと考えもしなかったという感想や、現在の社長の意見を社員が全く受け入れられないという感想や真逆の社長の意見が浸透していてビックリするなど、各社の内容も会員どうし共有もできました。

今回も事前にシミュレーションを行い、より分かりやすく内容の濃い例会が開催できたと思います。

(文責 笹田 健一)



増強ウィーク 開催報告



会員の皆様、第5回増強期間（増強 WEEK）につきまして、ご協力いただきありがとうございました。北松浦支部が各支部・各地区会最優秀賞を獲得されま

した。地道に頑張られた賜物です。ありがとうございました。

スポンサー賞は

1位 北松浦支部長 池野 晋一 会員
 2位 佐世保支部長 山領 進 会員
 3位 諫早支部経営・労務委員長 松田 卓 会員
 本当にありがとうございました。

また今回は長崎支部が中心となりフォーラム開催、大成功となりました。その情熱の熱さ、余韻が増強 WEEK とフォーラムが重なり、増強が週上効果でかなり盛り上がっています。このまま、全会員のお力で600名を必ず達成いたしましょう。

（文責 仲間づくり委員長 杉本 誠二郎）

中同協 第1回 企業連携推進連絡会 参加報告

10月15日に開催された企業連携推進連絡会に出席しました。

今年度の体制について、前年に引き続き畑野吉雄氏が常任幹事として選任された旨の報告があり、畑野代表より開会の挨拶と参加者の自己紹介がありました。実践報告として、「国際化への対応と企業づくりータイ・ビジネスマッチングから」の報告がありました。

①池田泰秋・中同協事務局次長からの報告として、阪南大学とタイ・サシン経営大学院の連携した取り組みで4年目となり、中同協や大阪同友会も後援している。タイは今、経済成長している状態にあり、経済成長期における現状や今後の動きを見て体感してきた。

②畑野代表から、世界の GDP は、10年前は2割であった東南アジア等新興国の割合が2015年には4割になると予測される。ASEANが6億人、インド12億人、中国13億人を合わせると世界の半分近い人口が集中している。バンコクの平均所得は大阪と変わらなくなってきている。ベトナムも急激に所得が高くなっていくと考えられる。そこに進出すれば市場としてチャンスが開けます。

③国吉・中同協副会長から、中国関連機関より招聘のあった食品関連イベントについて紹介がありました。

意見交換のまとめと確認事項として、①中同協や現地に国際連携についての窓口が必要で、継続的に意見交換することが必要②海外進出している会員企業などの情報を集めていくことが必要③タイ・サシン経営大学院とも連携をとり、現地窓口として覚書などを結ぶ

ことを検討④有志でのタイや ASEANでの海外視察の企画検討⑤エネルギーシフトなど地域内循環、連携で仕事づくりを検討⑥英語版での同友会の紹介など次回の連絡会で検討する。

その他、企業連携等に関する調査実施については、報道機関、行政や大学、地域内連携等の調査項目を追加し次回の連絡会で報告する。

最後に、各同友会から活動状況の報告があり、長崎同友会からは、産学官連携の取組状況について報告しました。

畑野代表から、各同友会で「仕事づくり」の連携の取り組みを積極的に行って、元気な同友会づくり、地域づくり、企業づくりを実践していきましょう。との閉会のあいさつがありました。

（文責 西尾 廣幸）



広告募集

< 4cm x 9cm >

複数月	6ヶ月	12,000 → 10,000
	4ヶ月	8,000 → 7,000
割引	3ヶ月	6,000 → 5,000

第26回中小企業憲章・条例推進本部会議 政策委員会会議 参加報告

1 1月5日から6日にかけて、秋晴れの心地よい季節に東京は市ヶ谷での会議に参加してきました。

2011年7月の第43回定時総会 in 北海道に参加して以来の長崎県外での同友会関係の会議への参加でした。政策委員長として活動し始めた当時は、情報収集のために東奔西走しておりましたが、最近は仕事を理由に県内での活動に終始しておりました。そこへ峰事務局員から今回は参考になる内容があるから是非参加してもらいたいとお誘いがあり、また制定されようとしている長崎県中小企業振興基本条例をいいものにしたという想いから参加することにしました。

1日目は、中小企業憲章・条例推進運動の到達点と今後の取り組みの方針についての報告等がなされた後、慶應義塾大学経済学部植田浩史教授の「中小企業振興基本条例制定後の対応～調査や振興会議（円卓会議）をどう提起するか～」と題しての報告があり、その内容は次の通りでした。

中小企業振興基本条例には「地域、中小企業、中小企業振興策が変わる」すなわち「時代の変化に対応した変化を創っていく」という意義があり、それを目指すことであるということ、つまり地域全体で中小企業支援を行っていくことを確認し、宣誓していること、発展していく中小企業に成長していくことで地域経済・産業・社会・文化に貢献していること、そして既存の地域産業振興、中小企業振興への考え方から、新しいパラダイムに基づく地域産業振興、中小企業振興へと考え方を変えることであるということでした。また、以下に示す中小企業振興の柱である3点セットを

学びました。①中小企業振興の方向性の明確さとその共有が条例であること。②調査の実施と分析により、現状を変えるための現状に対する正確な認識と共有を図ること。③地域全体で新しい体制と問題意識による中小企業振興を図るための協働の場としての振興会議の設置の必要性です。

長崎県においては、昨年12月に大村市で条例が制定・即日施行されたのを皮切りに、今年末に平戸市と松浦市で制定され、来年度始めに施行される予定で、諫早市でも制定の気運が高まっております。また、県レベルでは、現在条例制定に向けての策定会議が開催されており、来年2月の県議会上程後、3月に制定され、4月に施行される予定のようです。しかし条例の中には振興会議の設置の文言は現在のところ入っておらず、今後の私たち同友会の活動によって決まってくるものと考えております。ぜひとも今回東京で学び得たものを発信、活用し、理解していただけるよう頑張っていきたいと思っています。

さらに、今までは、中小企業振興基本条例制定の件に特化しての委員会活動でしたが、今後は、①地域密着での防災対策（中小企業の防災時の備蓄等）②五島沖で展開されている浮体式洋上風力発電などのエネルギーシフト③個人保証によらないガイドラインの活用④外形標準課税についての周知と署名活動⑤税制の研究なども委員会議題として議論を重ねていきたいと考えさせられたいい機会となりました。

（文責 町田 澄利）

中同協・憲章本部・政策委員会合同会議および政策担当事務局研修交流会 参加報告

1 1月5・6日（水・木）開催の会議に参加させていただきました。5日は憲章・条例推進本部会議ということで条例推進運動の到達点の確認等の後、「中小企業の見地から展望する日本経済ビジョン」の討議が行われました。この日本経済ビジョンにはビジョンの理念とあわせて①中小企業の見地から展望する日本経済の発展方向、②ビジョン実現に必要な政策の考え方ー財政と投資の流れを内需拡大型に、という2つの項目が掲げられそれぞれに内需主導型経済やエネルギーシフトなどの考え方が盛り込まれていました。一定の討議が終わり、第2部として慶應義塾大学の植田先生から振興条例と円卓会議（振興会議）に関する報告をいただき、グループディスカッションに入りました。報告の内容は新三方よし（中小企業よし、地域よし、

地域住民よし）の考え方や、地域を振興する上での3点セットが①条例②調査③振興会議、だというキーワードをいただきました。長崎同友会と照らし合わせた際には②の「調査」が未着手になっているため今後政策委員会と景況調査からその分析方法まで含めて協議していきたいと思えます。グループディスカッションでは他県の条例に関する進捗状況や振興会議の在り方などを討論し、地域を知る上で数字的な分析も含めた悉皆調査の必要性をあらためて感じました。

まとめとして、同友会とは他団体とも連携し条例という大きな運動を推し進めていくことの必要性、条例を制定した後に実際の施策に結び付いているかの検証、振興会議を含めた行政との懇談会が大切であるということが確認されました。

6日は朝から政策委員会の全体討論があり政策渉外活動の特徴、消費増税に関するアンケート集計結果の報告等がなされ、消費税引き上げの再検討を求める決議(案)についての討議も行われました。税制の抜本の見直しの必要性があるとの声もありながらも今後税に関しては税制プロジェクト内でも協議するというところで引き上げの決議案を採択、幹事に提案する運びとなりました。

6日午後からは政策担当事務局研修交流会が場所を移して東京同友会会議室で行われました。中同協瓜田政策局長から、政策活動の基本的な概要をQ&A方式でご報告いただきこの資料は今後政策活動を続けていくうえでベース、バイブルになるものでした。その後大阪同友会の山浜次長から政策提言までのスケジュールやその方法、行政との懇談会の内容等詳しい大阪の

取り組み事例報告をいただきました。定期的な事務局会議の中で情勢に関する議題を設け、事前に情勢を読み取り局員と共有することで局員の意識も向上しているとのこと。グループディスカッションでもやはり景況調査の大切さが話題に上がり、あらためて調査の必要性を感じた討論でした。

丸2日間政策に特化した会議・研修会を受け、毎回全国行事に参加するたびに思うことですが、会員企業の発展のため、地域の発展のために長崎同友会として何を、どのような切り口で行うことができるのか、まずはできることから情報収集し委員会と協議しながら一つずつ形にしていきたいと思います。このような機会をいただきありがとうございます。

(文責 事務局 峰 圭太)

九州・沖縄ブロック代表者会議および 第2回 中同協幹事会 参加報告

1月7日開催の九州・沖縄ブロック代表者会議に参加させていただきました。議題にそって、5月に開催された宮古島での支部長・支部活動研修交流会のまとめと来期鹿児島で開催される内容を検討しました。支部活動は支部長の想いが強く反映されるということから「支部長とは」という問題提起から「組織強化」「企業づくり」「地域づくり」という点から20分ほどの事例報告をいただく方向性でまとまっています。詳細は次回以降の会議で詰め、早めに案内を流し各県から多くの方にご参加いただくよう、また企画していきたいと思っています。

今回は上期の総括ということもあり外形標準課税に関する各県の取り組み報告や企業づくり、地域づくり、同友会づくりの観点から事務局長がまとめた取り組みを確認し大いに参考になりました。とりわけ長崎からはポスターの披露を松尾代表よりいただき、沖縄同友会のTTPではありますが実践事例ということを報告されました。

その後中同協松井専務幹事より「愛知同友会の役員づくり」というテーマで愛知同友会のこれまでの歴史と取り組み事例を報告いただきました。長年の運動の中で到達した役員研修大学のあり方と仕組み、小グループ制の実情を、時間の関係で一部しか伺うことはできませんでしたがあらためて“愛知方式”の落とし込まれ方のすごさに驚くばかりでした。福岡同友会：樋口代表理事からは会員と事務局の役割に関する課題整理に関して進捗の報告をいただきました。福岡同友会は会員と事務局の役割を整理することで会の自主運営に力を入れ(会の自主運営に関しては愛知同友会も実践中)会の活性化を検討しています。長崎同友会と

しても今後の課題としてとらえ検討していきたいと思っています。

午後からは第2回中同協幹事会が開催されました。活動報告、全国大会のまとめや今後の予定などが確認され、上期の一般収支等も報告されました。その後第2部では7-9月期の景況調査と消費税調査結果の発表がありました。それに伴い、前日開催の政策委員会からの「消費税引き上げの再検討を求める決議(案)」の検討に入り、様々な意見を集約した後幹事会として決議されました。

全国から参加の皆さんが社会の問題に対して真剣に考え、議論している場面に同席させていただき事務局としても「自分ごと」としてとらえないといけないことを再度強く思いました。日々変化する社会情勢の中で自社、地域の発展のために活動、運動をする会員、会員企業、中小企業家同友会として私もその誇りを持ち主体的に関わっていくことを決意した時間でした。このような機会をいただきありがとうございます。

(文責 事務局 峰 圭太)

折込サービスのご案内

会員企業の皆様で制作されたチラシを広報誌と一緒に会員に配布するサービスを行っています。

毎月10日迄に事務局宛お届け下さい。発送は毎月15日～20日に行います。支部指定も出来ます。

A4チラシ1枚5円です。**A3チラシは2枚分**となります。ご利用お待ちしております。

広告のアクセス 第26期 経営計画発表会 参加報告

1、発表会は2回目とのことでしたが、私自身が考えている発表会に近くおどろいています。大変良くまとまっていると思いました。最後にお話しされていたように、社員と一緒に作り上げることが大切であるとのこと、会社の方向性と社員個人の人生目標が重なってより強い絆ができたことと思います。今後益々のご活躍を祈念いたします。

2、流石広告代理業！①発表会は、洗練されたイベントになっている。②計画書は、「見やすい」「読みやすい」「インパクト（印象的）ある」③白とオレンジを基調に全てが統一されていて、会場内をひとつにする工夫がされている。④経営理念ボードに続き、計画書、発表会のプロデュース業も事業化できるのではないか ⑤計画書について、大変よく練られていて、社長以下社員の皆様が時間をかけて作成されていた、ご苦労がつぶさに伺える。正直、「嫉妬してしまう」計画書！ ⑥発表会について、個がそれぞれ際立っていた。これは日常の業務でも社員さん一人ひとりが責任感を持ち、「仕事を任される」個々の実力と、社員同士の強い信頼がすでに存在しているからであろう。クリエイティブな企業だからこそ、経営計画書の作成と発表会の開催を通した自社成長はとても効果的だと感



じた。

3、社員の皆さん全員が自分の役割や目標をしっかり持っている事が素晴らしかった。自社の社員さんにも目標や夢を持たせてあげたいと思います。

9月開催、経営計画書策定セミナー合宿後の、「佐世保方式365」（365日以内に経営三種の神器を実践していく）の初陣でした。流石、山領支部長、始めの一步を踏み出す我々にとってはまさに教科書となる経営計画発表会でした。おめでとうございます。

（文責 佐世保支部 経営指針づくり委員長 豊福 和明）

会員活躍

長崎新聞

11月13日

長崎支部 浦上地区会

小林 征春 会員

太陽光 蓄電に活路

同社は2012年に始めた再生エネの固定価格買取制度に合わせ、太陽光発電事業に参入。県内外の15カ所で太陽光発電所を稼働させている。このうち千葉県では10月、一つの建物の屋根を借りる形では国内最大規模とみられる大規模太陽光発電所（メガソーラー）を完成させ、売電もしている。

ただ、世間では大手電力会社が買い取り契約の手続きを中断、波紋を広げている。同社は直接影響を受けていないが「買い取り制度も長くは続かないと考え次のビジネスを模索してきた」（小林洋平副社長）。

新システムは、本社工場に出力60キロワットの太陽光パネルを設けるとともに、蓄電池も整備。太陽光発電によ

諫早市津久葉町の日本ベネックス（小林征春社長）は、太陽光発電による電力を蓄電池にため、工場設備に電力消費が多いタイミングで放電することで、電気代を抑える新システムの実証実験を来春に始める。再来年春からシステム自体を全国各地の工場に外販する計画。九州電力など大手電力会社で再生可能エネルギーの買い取り手続きを中断する動きが広がるなか、売電以外の新たなビジネスモデルの構築を目指す。

諫早 日本ベネックス

電気代削減 来春から実証実験

電力の一部を蓄電池に流す。ためた電力は、工場のエアコンや照明などの電力消費が一定量を超えたタイミングで放電、一部をまかなう仕組み。

これによって電力会社から買っている分の電力のピークを抑え、結果的に電力会社に支払う電気代の基本料金引き下げにつながるという。実証実験では、年間で約400万円の電気代削減効果を見込んでいる。

小林副社長は「現在は蓄電池の値段が割高なためこうした取り組みは珍しいが、今後値段が安くなれば有利に活用できるシステム。電力のビジネスチャンスは広がっている。独自性を発揮したい」としている。

（久保景吾）

事務局企業訪問 ～同友会と出会ってよかった～

◆今回、長崎支部 浦上地区会 (株)落水正商店 取締役 岩 素子さんを訪問させていただきました。



島原でお生まれになられた岩さんは、幼少の頃から自宅裏に工場があり、いつも身近で働く女性を見てこられたそうです。その中には、笑顔で働く人もいれば、そうでない人もいたため、岩さんは子供の頃から「自分は笑顔で働きたい」と思われていたそうです。

お兄様は島原支部 (株)落水正商店 代表取締役 落水日朗さんです。お兄様1人、お姉様3人という、5人兄妹の末っ子としてご家族の愛につつまれ、いつもお父様には抱きしめられていたそうです。現在、長崎市江戸町にある(株)落水商店 長崎支店に在籍され、毎日笑顔で健康と元気を提供されています。鶏卵卸売・養鶏を中心に営業展開されていますが、岩さんが今最も力を入れられているのが、インターネットによる販売です。

インターネット販売では、「太陽卵」だけではなく、生にんにくより健康パワーがあるとされる、熟成黒にんにくと卵黄の栄養を凝縮した卵黄油から作られた「黒にんにく卵黄油」も販売されています。岩さんも毎日飲んでいらっしゃるそうで、まさに岩さんの元気の源!となっているようです。インターネット販売を始められたきっかけは、「人口減少が深刻化する中で、卵の販売だけでは長崎支店の存続が難しくなる。社員を守りたい。そして、両親が守ってきた会社を存続させたい」その思いからだそうです。同じ時期に社長から健康食品の話を持ちかけられ、始められることになりました。

インターネット販売を始められて1年半後、ブログから全国の方と知り合う中で、地元の人とのご縁をもっと大事にしていきたいと強く思われるようになったそうです。そのような時に、浦上地区会の上野辰一郎さんと保坂恵子さんに会われました。さっそく例会へオブザーバーとして参加され、その場で入会を決意されたそうです。

入会されて半年目にして浦上地区会の例会で報告をなされました。報告は勿論のこと、シミュレーションがご自身を知っていただけるきっかけとなり、みなさんとより親しくなられたそうです。今でも積極的に同友会活動へ参加され、交流も深めていらっしゃいます。同友会の魅力をお尋ねしたところ、「例会で他社の経営の話聞くことができ、ディスカッションで自分の考えをまとめる力を身につけられること、また、考え方を柔軟にできること、そして何よりも自分の経営論が間違っていないことを確認できること」とおっしゃっていました。



いつも満面の笑みを浮かべていらっしゃる岩さんですが、その元気な笑顔とはうらはらに、ご自身が重いご病気を患われたという、涙なくしては語れないほどの辛いご経験をなされていました。だからこそ、より一層健康であることの大切さを感じられて、健康情報を発信し、提供することで社会貢献をしたいと思うようになったそうです。「みんなを大切にしたい、みんなに健康で幸せになって欲しい。そのためにもっと勉強をしなければならない」そうおっしゃる岩さんですが、経理等の通常業務に加え、インターネット販売に関わる業務が加わる為、お休みも少なくなり、負担が大きいのではないですか?とお尋ねしました。ところが「いいことも、そうでないことも、みんな同じ。自分よりもっと大変で、苦勞されていて、前向きに生きている人がいる。そういう人のおかげでいつも上を向いていられる。だから、毎日楽しい」そう笑顔でお答えになるお姿からは、普段お見受けすることのない岩さんの、力強さを感じました。

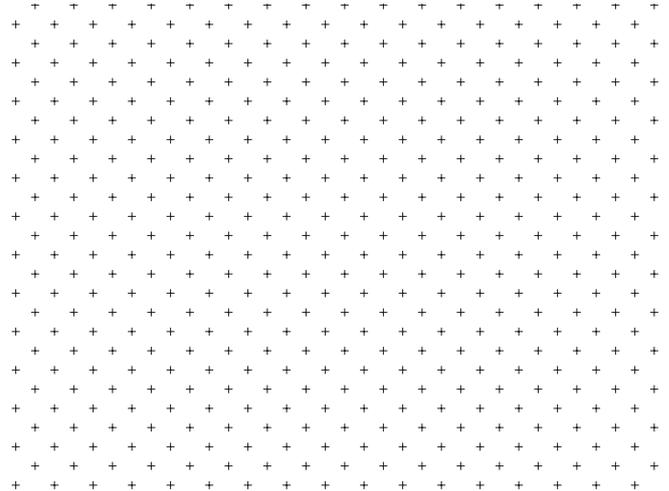
今後のビジョンは、お菓子部門の方にも力を入れて、インターネット販売で月商100万円を達成し、長崎支店を確かなものにする事だそうです。そしてその時はまた、同友会で報告をしたいというお気持ちをお持ちでした。

私事ですが、入局させていただいて早いもので1年が経ちました。ちょうど1年前、初めて参加させていただいたのが浦上地区会の例会でした。緊張で不安を感じていた時に、そっと優しく笑顔で話しかけてくださった岩さん。あの瞬間を今でも鮮明に覚えています。岩さんの笑顔に魅了されるのは、心から笑顔でみなさんに接することのできる方だからである、ということを確認しました。そして何よりも、温かいご家庭でお育ちになられたからこそ、いつも愛に溢れていらっしゃるのだと、深く理解することができました。「働くことが好きなので、生涯働きたいです」そう笑顔でおっしゃる岩さん。太陽卵のように美しく輝き、これからも、その笑顔と元気をみなさんのもとへお届けになれることでしょう。

(文責 事務局 江藤 香)

<交代を伴う 復会>

支 部 名	諫早支部		
氏 名	かわの ゆうすけ 川野 雄輔		
企 業 名	(株)豊恒		
役 職 名	常務取締役		
企 業 住 所	〒854-0022 諫早市幸町 73-3		
T E L	0957-22-8386	F A X	0957-22-8387
業 種	建設業		
企 業 P R			
スポンサー	馬場 一信		



1月例会案内

●長崎支部 浦上地区会

日 時 1月28日(水) 午後6時30分
 会 場 ギャラリーヘキサ
 テーマ 家電王子は語る!!「Never give up!!」
 報告者 (有)エムオー長崎 取締役
 小川 久郎 会員(長崎支部 出島地区会)

お母様の他界を機に、現社長のお父様を支えるために帰郷し入社。
 入社1年後に、突然の大きなビジネスの話に騙され、人間不信に陥るが、周囲の方々に支えられ立ち直ることができました。街の電気屋さんから学校や企業へターゲットを替え、単なる販売から、問題解決型販売へ方針転換。今ではフェイスブック等のITの活用で売上も伸びているとのこと。今回、小川さんの思うビジネススタイルについて、また、今後の展望について報告していただきます。

●長崎支部 出島地区会

日 時 1月22日(木) 午後6時30分
 会 場 メルカつきまち5階ホール
 テーマ 未定
 報告者 (有)酒の一斗 代表取締役
 池野 普一 会員(北松浦支部)

●大村支部

日 時 1月15日(木) 午後6時30分
 会 場 長崎インターナショナルホテル
 内 容 新年慶祝例会

●諫早支部

日 時 1月27日(火) 午後7時
 会 場 諫早観光ホテル 道具屋
 テーマ 同友会3つの目的に向かって
 報告者 (株)石橋工業 代表取締役
 石橋 ゆかり 会員

●島原支部

日 時 1月21日(水) 午後7時
 会 場 HOTEL シーサイド島原
 テーマ 若手経営者体験報告 第6弾
 学生で突然経営者になって
 ～学生から今までと未来への希望～
 報告者 (有)サンエイフーズ山口 代表取締役
 山口 武啓 会員

闘病中だった経営者の父の死。会社経営の右も左も解らないままに経営者へ。取引先との付き合い方、お客様とのかわり方、何もかもがいきなり実践からスタート。先代よりOEMはしていたが、現在では人気ラーメン店監修のラーメン、某大手メーカーとのコラボ商品の開発など積極的に連携を重ね『ゆうバックギフト』等への掲載も増えています。そんな私の従業員さんへ対する想いや、現在進行中の案件紹介、今後の展開や目標といったビジョンを添えてお話しさせていただきます。

●佐世保支部

日 時 1月27日(火)
 会 場 魚魚の宿
 内 容 慶祝例会

●北松浦支部

日 時 1月29日(木) 午後7時
 会 場 松浦シティホテル
 内 容 新年例会(新入会員の抱負)

●五島支部

日 時 1月20日(火) 午後6時30分
 会 場 福祉保健センター
 テーマ 同友会の例会を通して
 報告者 (有)五島観光タクシー 代表取締役
 辻 千穂子 会員

五島支部例会初の会員報告です。
 例会のグループディスカッションなど、同友会で学んだ事を実践している体験報告。

●青年経営者会

日 時 1月20日(火) 午後7時
 会 場 かりーによ
 テーマ 私の履歴書
 報告者 (有)サンレイ 取締役
 飛田 精一 会員

12月理事会 議事録 抜粋

仲間づくりについて

入会・復会・退会の承認について 3名の入会、1名の復会、1名の復会交代、3名の退会を承認（※1名保留）
杉本仲間づくり委員長総括
12月1日に仲間づくり委員会を行いました。支部の若返りや、経営指針を用いた仲間づくり、レクリエーション、例会にたくさんのオブザーバーを呼び入会希望をいただくなど、仲間づくりがとて前向きになってきています。

協議・承認事項

1) 2015年度に向けて

→2015年度活動方針案（松尾代表）

→基本的には大筋承認。

→予算案提出

全国大会補助費を1万円から5千円に減額（全国大会参加促進が目的だったが、参加者が増えてきたため）、皆勤賞の廃止等が吉田財務委員長より説明。

・意見-皆勤賞の廃止に関しては、総会の表彰だけでもあったほうが良い。皆勤賞は例会の出席率アップにもつながるものである。皆勤賞はなくすのではなく、減額してでも残したほうがよいのではないか。

→上記の意見を受け、皆勤賞を残す方向で金額を含め詳細を検討する。

※今回提案の予算に関しては、各支部、地区会と各委員会にて持ち帰り協議いただく

各支部、委員会からの予算申請における三役会案

■共育委員会

2015年度合同入社式および年3回の社員研修開催に対する予算申請に対して、合同入社式分の10万円を予算計上。社員研修に関しては開催回数、会費設定等再度委員会で協議いただきたい

→予算が多いのか少ないのか判断がつかないため、1月の理事会にて具体的な予算案を再提出

■情報広報委員会

九州管内フォーラム参加促進および広報誌充実のために九州管内フォーラム参加時に報告をいただく5千円の補助申請に対して、全国大会補助費についても削減予算案のため予算化は厳しいのではないかとという見解

→基本的には会員が参加をして感動したことは無償で報告すべきではないか、報告を出していただくよう周知を徹底してはどうかという意見があり、予算化は見送り。

2) 賀詞交歓会について（2015年1月30日（金））

（三役会案）

式次第案、来賓リスト、開催会場の提案。また案内文を出す際、ご本人以外の随行者等も積極的にご参加いただけるよう案内文書に追記する

→式次第案、来賓リスト、会員への案内文を承認。また来賓への案内文を出す際にご本人以外の随行者等も積極的にご参加いただけるよう案内文書に追記するという三役会案を承認。

→会場はサンプリエールで開催することを承認。

※各支部の動員目標に関しては、昨年度の実績をもとに検討後、各支部に依頼をする

3) 役員研修会・来期活動計画検討会について（2015年2月28日（土））

（前回までの決定事項）

→第1部を中同協松井専務幹事に報告いただきグループディスカッション、第2部を支部、委員会の引き継ぎとする

（三役会案）

→諫早：道具屋を仮押さえ済み。式次第案を上程（司会を諫早支部に依頼）。

またグループディスカッションの時間

内訳や事前グループ長研修実施など詳細を詰めていく。

※また参加に向けて常に役員会、例会等で案内発信を行う

→会場、式次第案を承認。また懇親会費を5,000円とすることを承認

4) 新入会員訪問時マニュアルについて

→新入会員訪問時マニュアルを承認。今後、携帯メールへの連絡方法を情報広報委員会と事務局とで検討。また、入会時に配布する書籍変更と紹介する書籍を検討する

報告・連絡事項

1) 例会について（更なる例会の充実を目指して）-尾崎例会委員長-

出席率が下がってきていますので、出席率アップの対策をお願いします。また早めに例会の企画をし、しっかりと準備を行い、充実した例会が行えるよう宜しくお願いします。

2) 第21回経営フォーラムについて（登録366名 参加311名+来賓14名）

→収支進捗報告

→金額自体は確定しているが未精算があるためすべて清算が終了した後最終収支案を提出

3) ダイヤモンドクラブからの提案について進捗報告

→協議していますが、進捗ありません。結果を随時報告する

4) 会費引き落としの口座および会費支払い方法の検討について

→十八銀行、親和銀行以外でも会費の口座引き落としの対応を検討中

5) 理事選考規定および各規定に追記する文章について

→来月、詳細を提出

6) 日銀長崎支店来局報告

→長崎の中小企業の現状を知りたいということで来局

7) 人を生かす経営全国交流会参加報告（金井副代表、土井委員長、峰）

→参加報告あり。

8) 合同入社式の進捗について

→アンケートの結果をもとに、今後計画していきます

9) マスコミとの意見交換会進捗について

→現在のところ進捗ありません。会員に紹介を募っている状況

10) 外形標準課税適用拡大反対署名進捗について

→選挙後に国会議員に署名を提出します

11) 金融機関との覚書について

→日本政策金融公庫、商工組合中央金庫と12月に覚書の調印予定

12) 会員名簿作成について

→来月詳細を報告

13) 事務局について

・理念作成進捗報告→行動指針を作成中

14) 3カ月会費滞納者について-該当なし

15) 2019年 中小企業問題全国研究集会（全研）について

ニュー長…立食1000名、椅子800名、分科会対応約5室

ベストウェスタン…立食1000名、椅子900名、分科会対応最大6室

※中同協確認事項最大1000名（上限を設ける）でも全国大会開催可能

16) その他

→情報広報委員会より、e-doyuのファイルライブラリ整理の報告。三役会から依頼のあった広報誌の電子版配信に関しては、今後アンケートを取る予定（現状は同友会のHPにバックナンバーとして掲載している）。また、HPに各支部からの報告のアップが少ないので、報告アップのお願い

決議事項確認

・3名の入会、1名の復会、1名の復会交代、3名の退会を承認（※1名保留）

・2015年度活動方針案を大筋承認。一部修正、追記

・予算案は、皆勤賞に関しては減額でも残して欲しいとの意見があり、残す方向で詳細を検討する。今回提案の予算に関しては、各支部、地区会と各委員会にて持ち帰り協議いただく

・共育委員会からの2015年度合同入社式および年3回の社員研修開催に対する予算申請に対して、1月の理事会にて具体的な予算案を再提出

・情報広報委員会からの九州管内フォーラム参加促進および広報誌充実のために九州管内フォーラム参加時に報告をいただく5千円の補助申請の予算化は見送り。

・賀詞交歓会について式次第案、来賓リスト、会員への案内文を承認。また来賓への案内文を出す際にご本人以外の随行者等も積極的にご参加いただけるよう案内文書に追記するという三役会案を承認。会場はサンプリエールで開催することを承認。各支部の動員目標に関しては、昨年度の実績をもとに検討後、各支部に依頼をする

・役員研修会・来期活動計画検討会について会場、式次第案を承認。また懇親会費を5,000円とすることを承認

・新入会員訪問時マニュアルを承認。後は携帯メールへの連絡方法を情報広報委員会と事務局とで検討。また、入会時に配布する書籍の変更と紹介する書籍を今後協議する

次回日程…1月7日（水） 19:00～ つくば倶楽部

会員消息

会員数（12月1日現在）

	長崎（浦上）	（出島）	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	227	127	100	67	80	50	120	40	624
期首	201	115	86	57	54	40	99	25	509
現在	203	113	90	61	62	38	106	24	535

退会者（敬称略）

会社名	会員名	支部・地区会名	入会年月
(株)VielenDank	隈部 恭助	長崎・浦上	2013年8月
シュブレーム	坂本 哲也	諫早	2014年9月
(株)ジービー	角田 慎一郎	諫早	2009年1月